

## 5 安全なくらしと町づくり

### (1) 交通事故を防ぐ

わたしたちの住む北海道では、年間に何件も交通事故が起きています。わたしたちは、月形町の交通事故の様子はどうなっているのか、調べてみることにしました。

- 月形町では、1年間に何回ぐらい交通事故があるのだろうか。
- 交通事故の主な原因は何だろうか。
- 交通事故を防ぐために、けいさつではどのようなことをしているのだろうか。
- けいさつの方は、ふだん、どのような仕事をしているのだろうか。



交通事故の様子

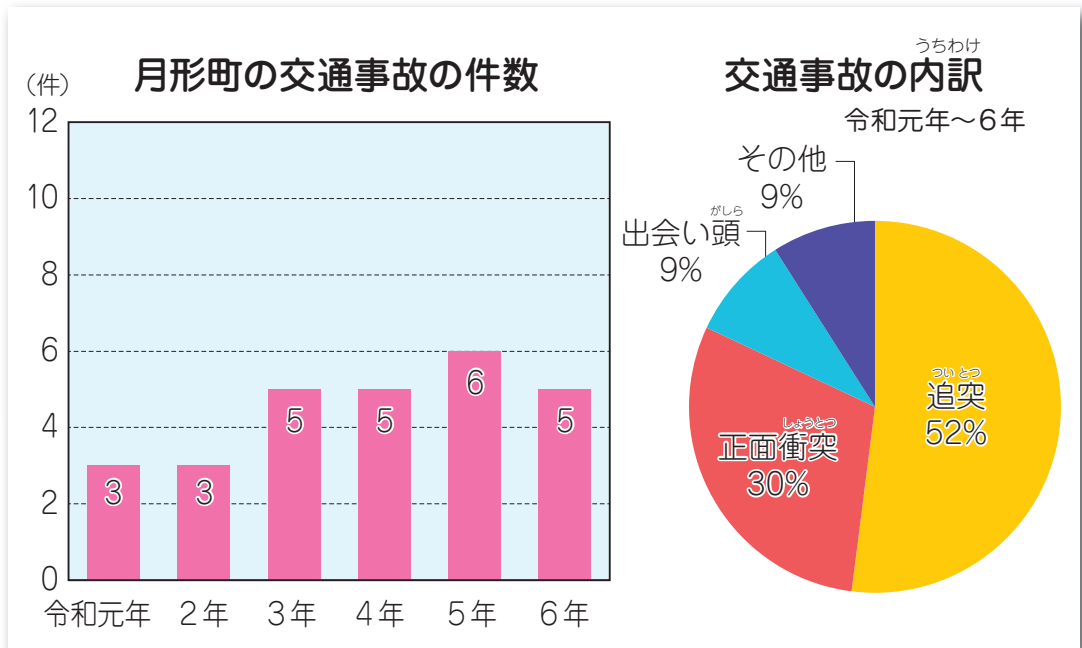
月形町のけいさつは、月形ちゅうざい所と札比内ちゅうざい所の2つです。

わたしたちは、月形ちゅうざい所のおまわりさんに、お話を聞きました。

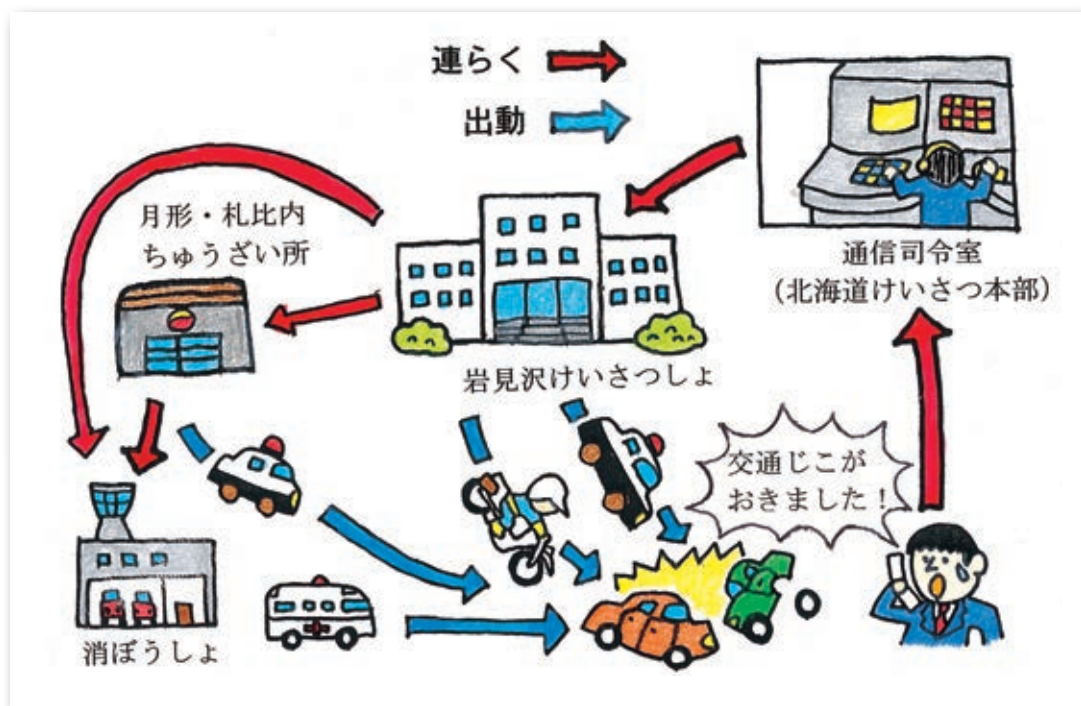
けいさつの仕事にはどんな仕事があるのだろうか？



「月形町では、1年間で5、6けんの怪我のある交通事故がおきています。その主な原因は、よそ見をしながら運転していたり、スピードを出しすぎたりしたものです。交通事故は、大きなものになると、人の命をうばってしまうおそろしいものです。車を運転する人は、まわりに十分気をつけながら運転してほしいですね。」



月形町の交通事故数とその主な原因



交通事故がおきた時の連絡図

と、話してくださいました。交通事故がおきると、けいさつはすばやくその現場にかけつけ、交通整理や事故にあった車を動かしたりします。けが人がいるときは、救助したり、消防署に連絡をしたりもします。また、事故の原因を調べたり、見た人の話を聞いたりもします。

次に、交通事故を防ぐために、けいさつではどんなことをしているのか、話を聞いてみました。



「交通事故を防ぐためには、みんなに交通ルールを知ってもらわなければなりません。そのために、小学校と中学校で交通安全教室を開いていま

す。交通安全教室では、正しいおうだん歩道のわたり方を教えています。また、本当にあった事故の様子を教えて、みなさんに注意をよびかけています。

また、月形町では毎年、町民交通安全パレードを行っています。これは、小さな子から大人、お年よりまで、国道275号に立ってはたをふり、国道を通る車に交通安全をよびかけるのです。これらの取り組みで少しでも交通事故が減るといいですね。」

わたしたち自身も気をつけなければいけないね。



交通安全教室



### 町民交通安全パレード

さいごに、けいさつではふだんどんな仕事をしているのかをたずねてみました。



「けいさつは、みんなが安全にいらしていけるように仕事をしています。わたしたちの仕事は、地いきのパトロールをしたり、落とし物をあずかったり、道あんないなどをすることです。地いきの人たちをたずねて、かわったことがないか、何かしてほしいことはないか聞いたりもしています。」

わたしたちは、けいさつの人が町の安全を守るためにたくさんのお仕事をしています。



月形ちゅうざいしょ



さっぽろ  
札幌警察署  
札比内ちゅうざいしょ

## (2) 火事を防ぐ

わたしたちは、火事を消すための施設や仕組みについて話し合い、次のことについて調べてみることにしました。

- 町には火事を消すために、どんな施設があるか。
- 消火のしくみはどのようなになっているか。
- 火事にそなえてどんなじゅんぴをしているか。

### 地いきの消火施設調べ

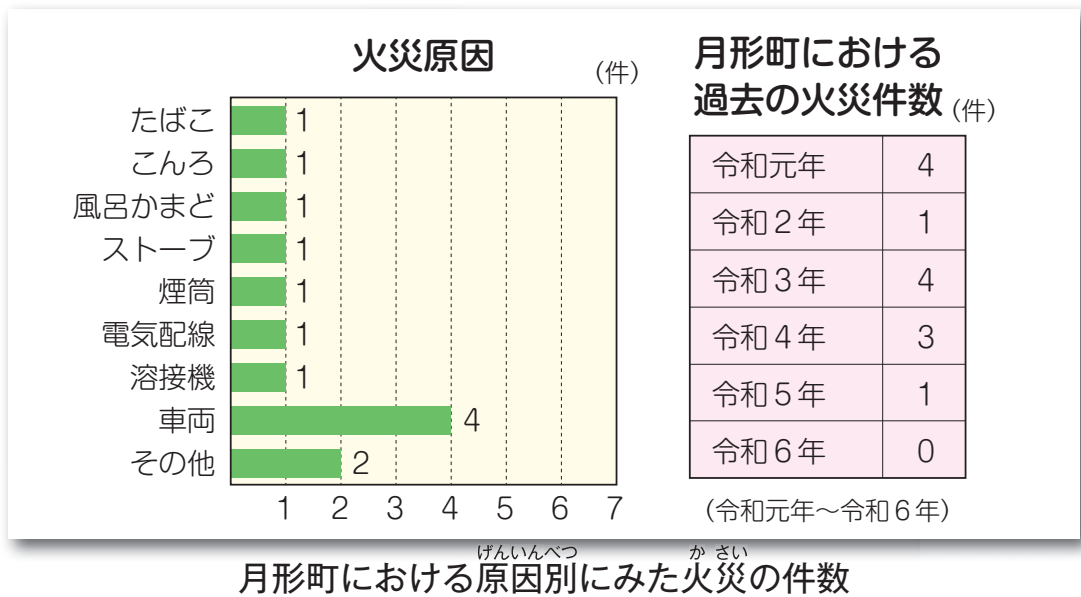
どういうところに消火施設があるのだろう？



わたしたちは、家の近所に火事を消すための施設には、どのようなものがあるか調べてみました。



月形消防署



明さんの家の近所を調べたグループは、道路わきの赤い立て札のところにある、赤い管でできた消火せんを見つけました。

このほか、<sup>ぼうか</sup>防火水そうもすぐわかるように立て札が立てられています。

気づいたことはノートにメモして、教室に帰ってから、消火せんや<sup>ぼうか</sup>防火水そうのある所を地図にまとめてみることにしました。

## しせつ 消火施設の地図

地図を作ると、消火せんや<sup>ぼうか</sup>防火水そうは、家の多い所や、学校、総合体育館など、人が多く集まる所にあることがわかりました。月形町では、消火せんは17か所、<sup>ぼうか</sup>防火水そうは36か所、全部で53か所ありました。

## 火事を消すしくみ

消防署しょうぼうしょの方が、「町内に火事があれば、知らせを受けてから数分で火事の場所に着いて、放水できます。」と話されたので、その速さにびっくりしました。

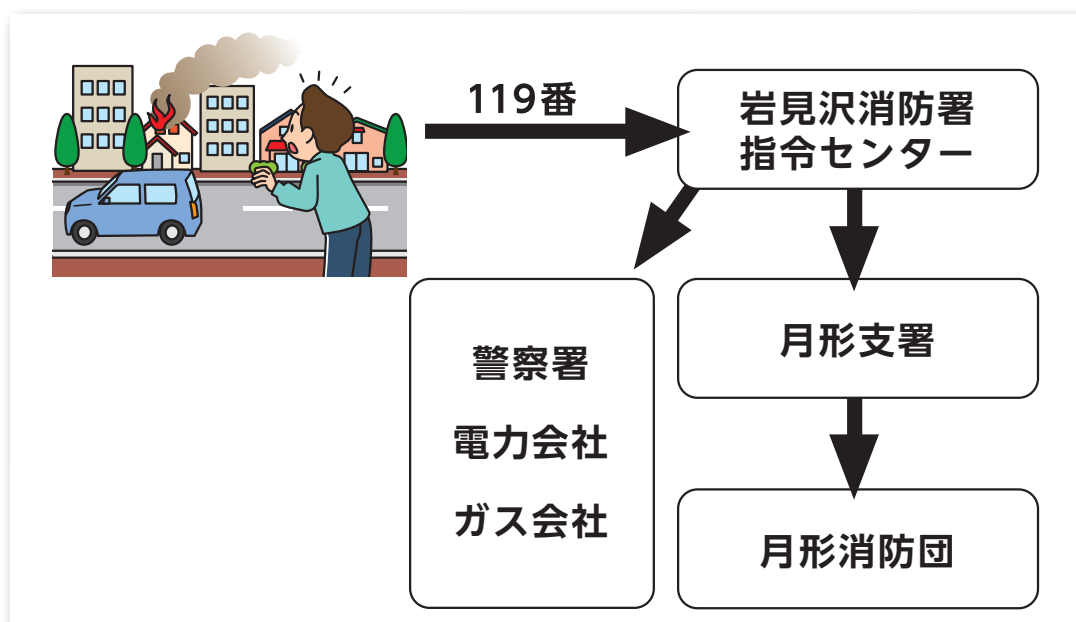
消防のしくみは次のようになっていることを話してくれました。

火事の知らせは、岩見沢消防署しょうぼうしょの通信室につながります。

係の人はサイレンをならし、消防署員しょうぼうしょさんと消防だんの人に知らせます。消防だん員さんたちは、大急ぎで集まってきて、消防自動車に乗り、火事の場所に向かいます。



岩見沢消防署しょうぼうしょ指令センター



火事がおきたときの連絡図

火事の現場に着くと消火水そう、場合によっては、ため池や川などの水で、消防ポンプ車を使いすばやく消火にあたります。

## ぼうかたいさく 防火対策

消防署では、どこの水を使って、どんな消し方をするか、つねに研究しているそうです。消防署の人たちの頭の中には、消火せんや防火水そうのある場所などの消火地図が入っているのだなあと感心しました。

## ちいきぼうか 地域防火のしくみ

幼少期から防火教育がおこなわれており、花の里こども園の4才・5才児が「幼年消防クラブ員」として地域へ防火の呼びかけを行っています。また、火事のこわさや火事をおこさない



花火教室のようす



放水体験のようす



けむり体験ハウス



消防だん員による放水訓練くんれん

よう学び、学んだことを家族へ伝える活動をしています。

## しょうぼう 消防だんのしくみ

火事を防ぐには、消防署しょうぼうしょの人ばかりではなく、そこに住んでいる人たちが、みんなで協力しなければなりません。

わたしたちの町にも消防だんしょうぼうがあって、だん員数は76名です。ふだんはそれぞれの仕事についていますが、火事さいがいや災害さいがいが起きると、すぐにかかけつけ、消火きゅうじょや救助きゅうじょにあたります。また、定期的きんじきに集まって、消火訓練くんれんや火事が起きないように、町内の家々を点検てんけんします。



## 近くの町との協力

消防署しょうぼうしょの方は、「火事がおきた時、一つの町だけで火を消すことができない場合もあるので、早く火を消すためにも、近くの市町村が協力し合うことが必要ひつようなのです。」と話してくれました。

そこで、昭和47年(1972)、月形町きたむら・北村くりさわちよう・栗沢町いわみざわし・岩見沢市いわみざわしの4市町村で、岩見沢地区消防事務組合いわみざわちくしょうぼうじむくみあいをつくりました。

現在は、月形町いわみざわしと岩見沢市いわみざわしで、火災の予防活動や火事ふせを防ぐため、おたがいに協力し合っています。

## 火事をふせぐ仕事

消防署しょうぼうしょの方は、「火事を早く消すためには、消火器しょうかきなどを



防火水そう



消火せん



わたしたち自身も  
気をつけなければ  
いけないね。



### 火災<sup>かさい</sup>を知らせる仕組み<sup>しく</sup>①

用意しておくことが大切です。みなさんの家や学校にもきちんと用意しているはずです。」と教えてくれました。

月形町には、消火<sup>しょうか</sup>せんや防火<sup>ぼうかすい</sup>水そうが53か所ありますが、日ごろから点検<sup>てんけん</sup>し、雪がたくさん積もる冬には除雪をして、火事<sup>しよ</sup>のときに問題なく使えるように備<sup>そな</sup>えています。

それから、火事<sup>しよ</sup>になった時に、事故<sup>じこ</sup>がおきないように、けいさつ署<sup>しよ</sup>や電力会社などと相談しているとのことでした。

消防署<sup>しょうぼうしよ</sup>の方は最後に、「火事を消すことよりも出さないことが大切です。一人一人が火の用心につとめ、念<sup>ねん</sup>には念<sup>ねん</sup>を入れて火のしまつをしてほしいですね。」と話されました。



かざい しゆく  
火災を知らせる仕組み②

## しょうぼうしせつ 学校の消防施設

しょうぼうしよ  
消防署の方が、「学校でもしょうかき  
消火器の用意をしているはずで  
す。」とおっしゃったので、学校に帰ってからしら  
調べてみました。すると、学校の前は、しょうか  
消火せんやぼうかすい  
防火水そうがありました。学校の中にもしょうかき  
消火器やおくないしょうか  
屋内消火せんがおいてあること  
にも気づきました。教室や体育館などにはかざいほうちき  
火災報知機があっ  
て、火やけむりが出ると、すぐにひじょう  
非常ベルがなるせつび  
設備のある  
こともわかりました。

わたしたちは、学校でひなんくんれん  
ひなん訓練をしています。火事を  
ふせ  
防ぐとりにく  
努力とともに、火事が起きた時には安全にひなんするこ  
とを心がけなければならないと思いました。

### (3) <sup>すいがい</sup>水害を防ぐ

わたしたちの町は、昔から、雨がふったといえはこう水、雪がとけたといえはこう水というように、毎年<sup>すいがい</sup>水害になやまされてきました。

このため、町の人たちは、おそろしい<sup>すいがい</sup>水害<sup>ふせ</sup>を防ぐよう、道や国にお願<sup>ねが</sup>いしてきました。道や国もこれをみとめ、<sup>めいじ</sup>明治42年（1909）から工事が始められました。

しかし、大工事なので、長い年月がかかり、その間にも<sup>すい</sup>水害<sup>がい</sup>のために多くの人が<sup>くろう</sup>苦勞してきました。

なかでも<sup>しょうわ</sup>昭和7年（1932）の<sup>だいすいがい</sup>大水害は、7月下じゅんから9月中じゅんまで毎日のようにふり続いた雨でたくさん



<sup>すいがい</sup>水害の様子（昭和50年8月 台風6号）

(月形町史より)

水害年月日	石狩川の水 位	水害年月日	石狩川の水 位
明治22年(1889) 1月1日	(大雨洪水)	昭和9年(1934) 4月23日	13.84
24年(1891) 4月	(融雪出水)	10年(1935) 8月31日	13.45
31年(1898) 9月	17.00	11年(1936) 4月27日	13.25
34年(1901) 8月5日	—	12年(1937) 7月21日	14.61
37年(1904) 6月・8月	—	13年(1938) 4月25日	13.32
42年(1909) 4月7日	14.85	14年(1939) 4月29日	14.03
大正11年(1922) 8月24日	14.91	15年(1940) 4月28日	13.61
15年(1926) 5月	15.00	36年(1961) 7月24日	14.40
昭和6年(1931) 4月24日	15.00	37年(1962) 7月29日	14.48
	15.26	50年(1975) 8月24日	15.92
7年(1932) 9月2日	15.26	56年(1981) 8月6日	16.99
8年(1933) 5月5日	15.21		

### 主な水害の記録

の家が水につかり、田畑の作物もみんなどろ水の下になってしまいました。

この時、町の人たちが一番こまったのは、飲み水でした。消防だんしょうぼうの人が船で水を配って回ったり、新聞社では、蒸気船じょうきせんを用意して、新聞をはじめ食料品しょくりょうひんや日用品をいっぱいつに積んで、はげましに来てくれたそうです。

また、農作物のうさくぶつのしゅうかくが全くなく、農家のうかの人たちは、大変こまったそうです。その後も毎年のように水害すいかいがおり、農家のうかの人をはじめ、多くの町民を苦しめてきました。このため、

○石狩川いしかりがわや須部都川すべつがわの両岸に、ていぼうをきずく

○水の流れをよくするために、新しい川をつくったり、水門をつくる

○曲がりくねっている石狩川を、まっすぐにして、水を流れやすくする

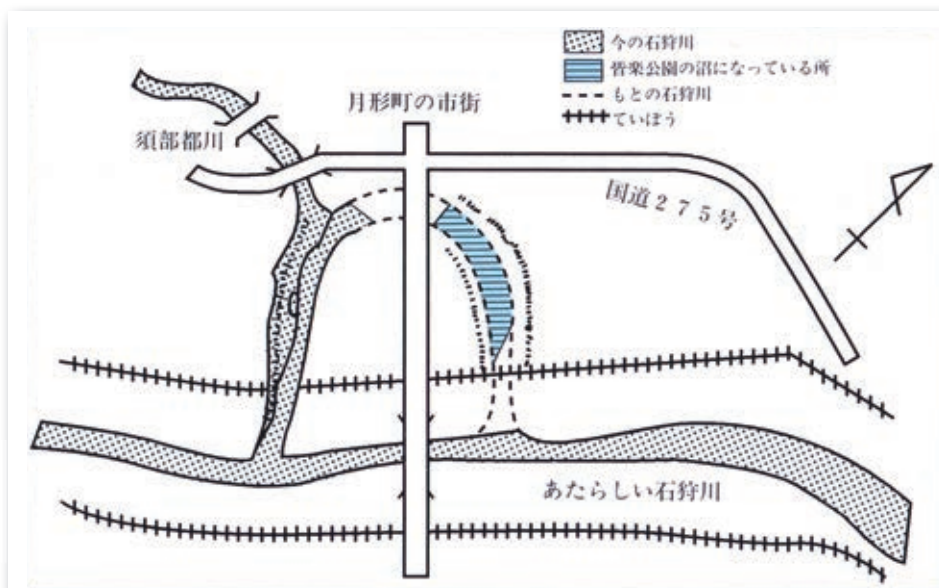
○須部都川の上流に「砂防ダム」をつくって、大雨による土しゃくずれを防ぐ

○川底を深くして、水かさが高くなるのを防ぐ

という努力が続けられました。工事が進むにつれ、水害はだんだんと少なくなってきた、人々はほっとしていましたが、ふたたび昭和50年(1975)8月に大水害が起きました。



砂防ダム



石狩川のきりかえた所

この年は雨が多く、8月に入ってから雨の日が続いていました。そこへ台風6号のえいきょうが重なり、大変な雨となりました。ぐんぐんふえる石狩川の水かさに消防だんや町の人たちは、水をせきとめようとしていましたが、ついに水はていぼうをのりこえ、月形市街地に流れこみました。8月24日のことでした。市街地の最も低い所では、2メートルをこえる深さに水がたまって、何日も引かず、人々は月形中学校にひなんしました。多くの家や商店が水びたしとなり、大変なひ害を受けました。この様子は、テレビで全国に放送され、たくさんの方々からお見まいをいただきました。



すいがい  
水害の様子を伝える当時の新聞



台風後のふっきゆう作業（昭和50年8月 台風6号）



<sup>むかし</sup>  
昔の人はたいへんな苦  
勞をしてきたんだね。

町の中にたまった水も、道や国などの助けをかりて、ポンプで川に水をくみ出して、ようやく元のすがたにもどりました。

この水害のあと、<sup>いしかりがわ</sup>石狩川のていぼうをさらに高くする工事が行われ、<sup>すいかい</sup>水害を防ぐための<sup>ふせ</sup>努力が<sup>どりよく</sup>続けられています。

<sup>しょうわ</sup>昭和56年（1981）8月にも、北海道は台風15号による大雨が続いて、近くの<sup>きたむら</sup>北村・<sup>ながぬま</sup>長沼・<sup>えべつ</sup>江別などが、大きな<sup>がい</sup>ひ害を受けましたが、<sup>いしかりがわ</sup>月形は石狩川のていぼうを高くしていたおかげで、<sup>だいすいかい</sup>大水害にならずにすみしました。

その後も月形町では、<sup>ぼうさいけいかく</sup>防災計画をつくり、<sup>すいかい</sup>水害や<sup>じしん</sup>地震などの<sup>さいがい</sup>災害に<sup>そな</sup>備えています。

